月刊 あなたにこの本を！ 平成19年9月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

ロボットおやじの“ものづくり魂”
ー中小企業はこう生き残れ!!ー

赤澤洋平　著
出版文化社　1680円　（0011409772）

ジャンル ： 大阪にゆかりの本

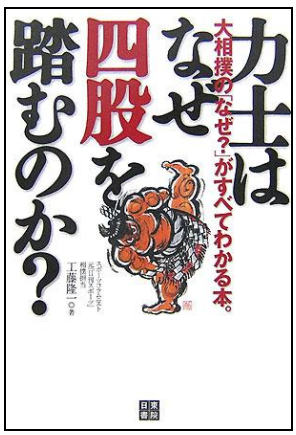
大阪の鉄工所のおやじさんが、ロボカップ世界大会でTeam OSAKAを初優勝に導いた。バブル崩壊の時期に社長に就任した著者が、不況を乗り越え、ものづくりに向かう姿勢を語る。著者の持論は「中小企業はひとり勝ちできない」というものだ。この考えのもと、部品を作っていた中小企業同士が力を合わせて、世界で通用するロボットを作り上げた。新しい分野を開拓し、可能性に挑戦するという“ものづくり魂”が伝わってくる。　〔501.9〕

日本手話とろう文化　ーろう者はストレンジャーー

木村晴美　著
生活書院　1890円　（0011415496）

ジャンル ： 知識・教養を深める

本書は、NHK手話ニュースの手話キャスターである著者が発行していたメールマガジンをまとめたものである。地域の手話教室で教えられている「日本語対応手話」は、日本語の語順にあわせて手話をつけたもので、ろう者の使う「日本手話」とは異なっている。日常生活での出来事を元に、ろう者と聴者の文化の意外な違いについてわかりやすく説明している。ろう者ならではの視点で書かれており、相互理解を深めるのに役立つ。　〔378.2〕



力士はなぜ四股を踏むのか？
ー大相撲の「なぜ？」がすべてわかる本。ー

工藤隆一　著
日東書院本社　1260円　（0011417601）

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

「力士はなぜ塩をまくのか」「なぜまげを結うのか」……。元「日刊スポーツ」記者の著者が、実際の取材にもとづき、様々なことをやさしく解説する。その内容は、稽古(けいこ)方法や、礼儀作法、業界用語、技、観客席についてなど多岐に渡る。日本の国技をあらためて身近に感じ、ひいては日本文化についてより理解を深めることができる。著者ならではの裏話や、元力士が手がけた親しみやすいイラストが随所にはさまれ、楽しんで読める。　〔788.1〕

あやつられ文楽鑑賞

三浦しをん　著
ジャンル　：　大阪にゆかりの本
ポプラ社　1680 円　(0011426643)

太夫、三味線、人形が織り成す芸と技、いきいきとした登場人物などから構成される伝統芸能「文楽」。文楽鑑賞「ド素人」であった著者が、いかにしてこの世界にのめりこんでいったのか、本書はその記録である。お姫様の人形に恋をし、襲名披露公演に興奮する著者の日常が軽妙な語り口で描かれる。また、「仮名手本忠臣蔵」など著名な作品に、著者独自の視点で解釈を加えており、文楽に一度も触れたことがない人でも楽しめる。〔777〕

声と顔の中世史　ー戦さと訴訟の場景よりー

蔵持重裕　著
ジャンル　：　歴史・文化に親しむ
吉川弘文館　1785円　(0011411329)

古来より歴史を動かしてきた詞(ことば)。裁判で敗れた者が大声を出して異議を訴える越訴(おっそ)や、戦場での武士の名のりなど、日本の中世では声を発することが大きな力をもっていた。さらに、声を出す際の表情や顔そのものにも意味があり、詞と共に顔は重要な意思表示手段であったと著者は語る。本書では多くの事例をもとに、詞の力と顔の持つ役割を検証する。新しい観点から、口頭伝達の世界が鮮やかに描き出される。〔210.4〕

コテコテ論序説　ー「なんば」はニッポンの右脳であるー

上田賢一　著
ジャンル　：　大阪にゆかりの本
新潮社　714円　(0011423822)

洗練されたキタは「左脳的」であるのに対し、庶民的なミナミは「右脳的」であると著者は語る。道頓堀、吉本興業など、大阪の象徴である「コテコテ」はミナミに集中する。鉄道の発達や芸能の街としての発展など、近代史を振り返りながら、強烈な個性をもつミナミの活力の源を探っていく。明治初期はネギ畑や墓地だったところから街が形成されていく過程がわかりやすく描かれており、大阪のまちの歴史やその魅力を語る一冊として興味深い。〔291.63〕

ちょっと遠出のお菓子漫遊記

吉田菊次郎　著
ジャンル　：　歴史・文化に親しむ
時事通信社　1680円　(0011414440)

ルーマニア、トルコ、モロッコ、フランスなど世界各地の銘菓を求める探訪記。著者は渡仏修行経験もある洋菓子職人で、トルコのバクラヴァなどご当地のお菓子をその製法や歴史をふまえて詳しく紹介する。また、フランスの巡礼道に埋め込まれた帆立貝のマークがマドレーヌの原型になっていることなど、旅のエピソードも興味深い。お菓子好きにも、旅行好きにもおすすめの一冊。巻末には各地の名店や名所が写真つきで掲載されている。〔596.6〕

ニッポンの縁起食　ーなぜ「赤飯」を炊くのかー

柳原一成　柳原紀子　著
ジャンル　：　暮らしにうるおいを
日本放送出版協会　740円　(0011436402)

人の一生を彩る「通過儀礼」と「年中行事」。本書では、特別にしておなじみの食の縁起を、江戸懐石近茶流宗家である著者が、料理や植物学、歴史など多角的視点から考察する。エビが縁起がいいとされるのは、高貴な色である赤い体色と腰の曲がった体形が長寿の象徴とされたから。お月見に団子を15個供えるのは、15の数が「丸」という意味を持つとされたから、などわかりやすく解説。様々な食に込められた先人の願いや思いを知ることができる。〔383〕